

## 喜びも悲しみもすべて 共有することで、「幸せ」を 見いだせる夫婦になれる。

札幌北教会 土井悠圭さん

土井悠圭さんは結婚生活約30年に渡り、夫の度重なる離職で経済的に不安な日々をおくっていた。そんな夫に責める気持ちを抱き、結婚自体を後悔していたある時、よく相談ののってくれる人から「ご主人に感謝の気持ちでふれあえるようになるといいわね」と諭された。家計を助けるために長年働き続けている土井さんには釈然としない言葉だった。ある日、鏡に映る自分の表情が険しいことに気づく。そして、ふと、夫婦喧嘩の最中に「ツンツンした顔は似合わないぞ」と夫から言われ、思わず吹き出してけんかにならなくなったことを思い出した。「いつも私を見ていてくれる夫。なのに私は…」夫を責め、愚痴を聞こうとすらしなかった自分を省みると、夫への感謝の気持ちが変わってきた。「いまは大変だけど、一緒に乗り越えていこうよ」と伝えたと、夫はしっかりと受けとめてくれた。いま土井さんは、喜びも悲しみもすべて夫婦で共有し続けていけば、どんなにつらい状況に置かれたとしても、「幸せ」を見いだせる夫婦になれると信じている。



## 愚痴をいわない

不都合なことに遭うと、私たちは愚痴をこぼしがちです。愚痴には「いつても仕方がないことをいつて嘆くこと」という意味があります。確かに私たちは、いつてもムダと知りつつも不平不満をいい、ときには思い通りにならないことを人のせいにしてまで愚痴をこぼすのです。

私たちがなぜ、そこからなかなか抜けだせないのかといえば、自分の知っていること、思っていること、考えていることが「絶対に間違いない」という錯覚にとらわれているからです。これが愚痴の原因の一つだとすれば、その心を省みるかえりることにより、不満や文句が少なくなりそうです。そういう心のはたらきを、よりしっかりと自分のものにする方法があります。それは、この世のあらゆるものごとに通ずる真理、つまり「真実の道理」を知ることです。この世のあらゆるものが、一つにつながるご縁によって生かされているという事実。その恩恵を受けて、いま自分がここに存在するとうり難さ。このことが明らかにになり、感謝できると、愚痴は出てこないのではないのでしょうか。ひとことといえば、天地自然の道理がわかれば愚痴はいえなくなるということです。

# 立正佼成会